

危険物新聞

10月号 第766号

発行所 公益財団法人大阪府危険物安全協会
〒550-0013 大阪市西区新町1-4-26
ニッケ四ツ橋ビル6F
TEL 06-6531-9717 FAX 06-7507-1470
URL : <http://www.piif-osaka-safety.jp>
Email : osaka-safety@office.eonet.ne.jp

平成29年度重点項目 危険物の取扱いや危険物施設等のリスクや作業上の不注意に対して「安全確保」を自覚しよう

- (1) 危険物や貯蔵・取扱場所の危険性を分析し、危険要因を把握しよう (2) 把握した危険要因に対して、対策を樹立しよう
(3) 日常作業でのヒヤリハットを話し合おう (4) 作業に係る基本的事項や技術的知見の習熟を図ろう (5) 「安全確保」を自覚しよう

A E D

心停止状態にある人に電気ショックを与えて救命するAED（自動体外式除細動器）は、元来、薬事法の「高度医療機器」及び「特定保守管理医療機器」に指定され、医療行為として医師又は医師の指示の下での看護師、救急救命士等の使用に限定され、厳しい管理がなされていた。ところが平成16年7月厚生労働省の通知により一定条件の下、一般市民（非医療従事者）にも使用が可能となった。（厚生労働省の資料を参考）

この背景には高円宮さまがスカッシュを楽しまれていたときのことがある。急に心室細動に見舞われ急逝（2002年（平成14）11月21日）されたことにより、これを機に除細動に対するAEDの一般市民への使用の是非が議論されることとなった。

AEDは紆余曲折を経て非医療従事者（一般市民）への使用の必要性が高まり、平成16年7月厚生労働省通知により、一定条件の下で一般市民にも使用可能となったのである。

ではどれくらい普及しているのかというと使用可能となった平成16年には医療機関が5,946台、消防機関が108台、その他の施設には1,097台であった。しかし6年後の平成22年には医療機関が67,647台、消防機関が9,644台、一般施設には251,030台と大きく伸び、総数では328,321台となった。（帝京大学医学部教授 阪本哲也氏の研究報告書）

もちろんこの間、多くの人の命を救ったことは、マスコミでも大きく報道され、周知の事実である。

産経新聞の報道によると、AEDを使用した場合と使用しない場合の社会復帰率について、大阪大学と京都大学の共同研究結果を次のように報道している。

『心停止している人へAEDを使用して電気ショックを与える処置をした場合、与えない人に比べ

1ヵ月後に社会復帰できる割合が18.2%から38.5%と2倍になることが分かった』としている。

この合同チームが平成17年から9年間、消防庁救急搬送データを基盤に、市民の「心室細動」で使用した統計データなどを分析した結果として報道している。

これほど効果が大きいにも関わらず、その利用率はわずか4.5%にとどまっていることは、普及が進んでもその場にAEDがあるのか、またAEDを使用した経験があるのかといった問題もある。

AEDを使用する場面に接した場合、訓練では使用した経験があるものの、なかなか率先してAEDを使用するということは、難しい面もあるのではないだろうか。

日本人特有の何事にも控えめな気質は、集団行動の中で誰かがやるだろうといった雰囲気が多分に漂い、処置が出遅れる場合が多いのも事実である。

現在、各自治体ではAEDを使用した救命措置訓練が無料で実施されているので、各自治体に問い合わせ受講されるといいだろう。

ただこの体験は一度の受講ではなかなか物にはならず、多くの場合その使用する機会が減多にならないので、受講から月日が遠ざかると、忘れてしまうことが多い。機会があれば半年、1年をサイクルに再受講して、しっかりと身に付けることが肝要であり、それが確実に救命することにつながるという。いわゆる救命事案に遭遇した場合、自然と体が動き救命処置が行えることが重要である。要は「体で覚える」ということである。

超高齢化時代に入った現状では一連の救命行動は多くの「心停止」を救う術である。是非、講習会場に足を運ばれることを願うものである。

「危険」「安全」に込めた思想

関西大学社会安全学部
教授 辛島恵美子

〔前号のつづき〕

5.5 holonomy型対策(2)

社会レベルにおける秩序と公平性を基礎とする信頼関係の重要性の指摘は、とりたてて反対する理由はないものの、だからといって、そのレベルの対策をholonomy型対策と名づけ、safety型とsecurity型とあわせて安全対策の三分類と整理するほどの意味があるのだろうか、そんな疑問を持たれる方もあるかもしれない。

名づけは漢字の特徴を活かしたものである。漢字「安」の中核的特徴は「(上から下に抑えて)じっと落ち着く」であり、単に静かな状況を淡々と述べるケースとは異なり、落ち着かせるに至る工程が前提されている。形容詞や名詞になると、結果状態に焦点が置かれるのも不思議ではないが、動詞であればこの前提条件の意味は相対的に大きい。その動きが儀礼であるのか力づくであるのか等々の別はあるにしても、「動きのあるものを押さえ止めて、ある場所にじっと落ち着かせる」の特徴に注目し、全体の秩序を整えることに焦点を定めて英訳したのが「holonomy」である。

「holonomy」の構造は「①holo + ②`nomy」の合成語であり、①はギリシャ語系 *hólos* (その意味はwhole, entire)の英語形であり、②はギリシャ語系 *`nómos* (意味はcustom, lawの意味)の英語形である。

「holo」「`nomy」を用いた同様の合成語の用例には「holo`graph ((全文)自書、自筆書類)」「eco`nomy (*oikós* house + *`nómos* managing (富などの)節約、経済)」「astro`nomy (*astro`* star + *`nómos* arranging, regulating 天文学)」などがある。

16世紀後半頃の戦国の世における日本語の意味を記している日葡辞書には「安んずる」と動詞の記載もあるが、「安」を頭に付けた二字熟語も幾つも掲載されている。「安全」もその一つである。その中の半分くらいには、訓読みした表現も付している。その多くは「やすく、やすし」と訓じているが、「安坐、安枕、安宅」は「ごをやすんずる、まくらをやすんずる、たくをやすんずる」と動詞として訓じている。しかしその解説ではなぜか「やすく」である。「安全」にはこの訓読みは付されておらず、「アンセン: 平和で無事平穏なこと」のみである。ちなみに「安心」も同じく訓読みは付されておらず、もっぱら仏教用語の解説である。この違いは何を意味するのだろうか。訓読みが無いという

ことは、漢語のまま受け止めている段階にあり、まだ漢語の素養のある人々以外には使われていない言葉と考えることもできる。それが正しければ、庶民も使う言葉にまで定着してゆくと、当初は「安」の動詞的用法(「やすんずる」)であったとしても、関心は動作過程より結果状態にあることから、形容詞的用法(「やすく」)の意味として普及してゆくと考えることもできる。

動詞「やすんずる」は「平穩に統治し支配すること」とあり、その用例には「クニヲヤスメ、イエヲヤスンズルコトハヒトラエレバナリ(国を休め、家を安んずることは人を得ればなり)」を挙げていて「国をよく統治し、家を円滑に管理し支配することは立派な家臣を得ることからくるのである」と解説している。戦国時代に編集された辞書であることを思い起こさせる用例であり、当時の支配者層が使う言葉を想像させる。下剋上の乱世であればこそ、平和で無事平穏な世になることを支配者層も一般庶民も願っていて不思議ではない。支配者層が主に使う言葉であるとすれば、当時の状況下では、誰が誰を安んずるかを取り立てて問題にする必要もなかったと思われる。またその目指す結果は「平和で無事平穏な世」の構築であったろう。

それとの比較で言えば、現代の日本社会は徹底した民主主義の社会であり、「安全」の言葉を「危険のないこと」と理解している人が多く、もはや「やすんずる」という動詞用法は使われていない。動詞にするには「安全を確保する、安全を図る」のように別の動詞を付けて表現する必要がある。つまり「安」の“不安定な状況からの脱出、解放”という前提部分の特徴を失い、もっぱら(結果)状態に関心を集中させている形である。もはや「結果」の感覚もない。このように状態に関心が集中していくと、「安全」の訓みも「やすく、まったし」と解釈されるのは自然の流れともいえよう。つまり完全、完璧の意味を強く添えていくことになり、極端には「何をしても危なくない状態」を期待してみたり、単に客観的条件を整えただけでは満足せず、心理的満足、安心をも要求する方向にずれていくことにもなるのであろう。

下剋上の乱世に暮らした人々の緊張感と比較すれば、現代日本社会では、人々を守る責任を負う一部の人々を除けば、大部分の人々には「安全である」のは当たり前といえるほどの日常が実現しているということでもある。確かに平和で無事平穏な社会が成立している。もし島国日本だけの世界に今の状態のままどまられるのであれば、秩序の回復をことさら強調する必要はないのかもしれない。現在の日本社会にも多くの外国出身者が暮らしているが、公式語を数種類用意しなければならないとか、文化の違いを強く意識して共存のための政策を工夫しなければならないという感覚は強くない。人数が少ないせいなのか、もっぱら外国出身者の方が日本社会に溶け込む努力をし

ているせいなのか、多くの人々は異言語や異文化の壁を感じることもない。移民で構成してきた米国では、歴史的に労働安全問題でも異言語や異文化の面からの対策が欠かせず、昨今の欧州では、緊急に自国から避難せざるをえなくなった難民の引き受け問題が一つの契機となり、深刻な国内政治問題を引き起こしている。これまで多くの人々が共有していると信じてきた理念を次々に否定する極端な人種差別や排斥運動にも展開し、治安悪化が懸念され始めている。

つまり現代状況をもう少し客観的に観察すれば、諸事情は大きく変化しつつある。グローバル化のかけ声とともに、言語的にも歴史的、文化的、宗教的にも共通性の薄い人々が「地球国家」ないしは「地球社会」ともいべき密接な関係を構築していく世界が出現しつつある。

日本は欧米社会が現在苦しんでいるような政治課題には直接大きな影響を受けてはいないものの、何やらきな臭い状況も身近に起きつつある。しかし決して昨今のことではなく、日本もかなり前から新しい変化の渦中に置かれている。たとえば食糧の半分以上を海外からの輸入に頼っており、これまでのところ順調に展開しており、支障らしい支障は起きていない。しかしこの順調さを支えているのは「円滑な貿易の成立と維持」であり、ここに不具合が生じればたちまち食糧騒動が起きてもおかしくない状態にある。歴史的に見れば戦争による輸送問題もあるが、異常気象の続く昨今では、輸出国が深刻な凶作に陥れば、輸出どころではなくなる。輸出国の気象条件やそこに暮らす人々の生活の安定も日本の食糧事情と密接に関係している。このような密接な関係は食糧問題に限らない。現代はこうした情報を容易に入手できる条件は整っている。しかし気にしていなければ情報も集まらず、さらに情報は玉石混交であって判別の力を必要としている。情報技術(IT)の発達は大量の情報を多角度から受発信できる仕組みを作り上げており、適切な批判力が無いと、情報に振り回され、社会的パニック状態をいとも簡単に引き起こせる状態にもある。

安全問題に話をもどせば、現代日本社会を考えると、もはや地理的なアジアの東端にある島国の社会を考えて済ますわけにはいかなくなっている。身近な道具や食品一つをとってみても、島国日本の中だけで作り上げられているものは少ない。地理的に日本から一步も外に出なくても、世界の国々とそこに暮らす人々の生活と密接に関係しているのが現代社会のありようである。そうであるとすれば、言語も歴史も文化も習慣も異なる人々との間で互いの意志を正しく伝えあい、そのギャップをどのように調整していくか等々の社会活動の基礎的信頼関係構築の課題群も安全対策の配慮項目に加えることの重要性も明らかであろう。safety型対策やsecurity型対策だけではな

く、そこにholonomy型対策も加える必要があると主張するのはそういう事情があるからである。

5.6 「安全」に込められた願い

現代の西欧社会を中心にリスク思考が大流行している。歴史的には1975年に米国のラスムッセン報告書に明示された確率論的リスク分析の特徴をリスクの定義と理解している人が多い。この特殊なリスクの定義はそれまで定性的にしか言えなかった問題を定量的に表現できるようにした点で、意義は大きい。しかし「リスクrisk」の語源は「to navigate among cliffs」であり、冒険的な航海になることを承知で実行するところに特徴があり、その所期目的は大前提で、それを成功させるためにリスク最小化の努力やその他の準備をして出発するのである。これがリスク・マネジメントである。「リスク管理」と訳した場合の基本行動パターンはこれである。

これに対して「安全管理」と表現した場合で、なおかつ漢語「安全」の特徴にしたがう場合は、「すべてのものがやすらかになるように行う」ことが特徴となる。この場合も、行く手に潜むかもしれないハザードを探し出し、対策を考える点は、「リスク管理」と全く同じ工程を進む。もし理想的な対策があり、一切の弊害のない状態で目的成就が叶うのであれば、「リスク管理」式であれ「安全管理」式であれ、到達点は同じである。ただし、現実にはすべてのハザードを探し出すことは困難であり、総じて理想的な対策は困難であるため、両者の道は分かれることになる。リスク管理の場合は「safety = freedom from unacceptable risk」を基準としており、この定義の「safety」までリスク低減を図ることが求められる。安全管理の場合は所期目的と弊害をバランスさせる方向で調整することになる。前回もちだした三方一両損的裁決の発想である。所期目的設定側と弊害受容側の双方が利益と損害・受忍の程度を社会的にバランスするように考えようとの発想に特徴がある。現実にはよく似た作業場面も少なくないが、リスク思考は「仲間を守るが、仲間以外、つまり敵は守らない」の発想を基礎にしている点に特徴があり、安全思考は“すべてのものを対象”とするために、仲間を守るのは当然であるが、いわゆる敵をも考慮する発想を基礎にしている。戦争の悲惨さは誰もが分かっているからこそ、何とか永久に戦争をしないですむ方法を模索するのであり、その基礎条件として敵を含めてそれぞれがそれ相応に生きられる配慮が欠かせないことになろう。それがどれほど難しい課題であるかは明らかであるが、しかしそれを目指すのが「安全」の語に込められた願いであり、理念である。どのような基本の考え方で「リスク管理」あるいは「安全管理」と名乗るかで、道は大きく別れることになる。

安全を考える
地球環境と私達の生活

オイルステイン塗料、 油性塗料と水性塗料について

一般社団法人 近畿化学協会
化学技術アドバイザー 石原 哲男

1. 塗料の歴史⁽¹⁾、⁽²⁾

有史以前の塗料は、フランスのラスコーやアルタミラの洞窟壁画に見られるように、赤土や煤を動物の血液や樹液と混ぜ合わせ、指や木の枝を用いて描いていたようだ。色としては、赤と黒以外に白、褐色、黄色も用いられていた。

有史時代(エジプト文明・メソポタミア文明・インダス文明の時代)に使用されていたのは、天然アスファルトで、これは塗料用途以外にも接着剤、防水剤、防腐剤として幅広く使用された。わが国では、縄文時代の遺跡から漆器の下塗として使用された形跡が見つかっている。

色材としては天然顔料が用いられたが、時代が下るにつれて人工顔料も使用されるようになった。

古代エジプト人は青色を神聖視し、高価で貴重な天然鉱物顔料「ウルトラマリン」を使っている。「ウルトラマリン」は、ラピスラズリという鉱物を磨りつぶして顔料にしたものである。

プトレオマイオス王朝のクレオパトラ7世は、「ウルトラマリン」をアイシャドーとしてメイクに用いていた。その他の青として「トルコ石」があったが、いずれも希少な鉱物で高価で入手が困難であったことから、古代エジプト人たちは、これらに代わる人工顔料として有名な「エジプシャンブルー」を開発している。原料の珪砂、炭酸カルシウム及び孔雀石にソーダ灰を加え、高温の800～900℃で焼成して製造するが、精度の高い温度調整が必要で、この時代としては驚くべき技術であった。

我が国の着色の起源は、縄文時代草創期までさかのぼれる。その後、弥生時代に入り卑弥呼の時代、中国の魏志倭人伝に残された資料に「倭人の男は顔や身体に入れ墨をしている」との記述が残されていて、当時の男達は入れ墨で顔や体に色をつける風習があったと考えられている。また、卑弥呼が魏王に使者を遣わしたお礼として、魏王が銅鏡百枚、真珠と鉛丹各五十斤を授けたとの記述がある。この鉛丹が我が国に関係する最古の顔料としての記録である。鉛丹は鉛を高温で溶かし酸化させて作る、あざやかな橙色の顔料で光明丹、赤鉛とも呼ばれ、最近までさび止め塗料に使用されていた。この鉛丹は、宮殿を彩る塗料として、また化粧用、絵具として使われていたと考えられている。

古墳時代の赤顔料は、酸化鉄の弁柄(ベンガラ)、硫化水銀の水銀朱(辰砂、シンシャ)が使われていたが、

中でも水銀朱は九州の八代から長野県の諏訪湖までの東西に走る中央構造線に沿って多く産出しており、古事記や日本書紀にも辰砂(硫化水銀)の存在が書かれている。水銀朱は神聖視され、そして防腐性能に優れていることから、古墳時代の墳墓の石室や木棺に大量の水銀朱が使われた。また、辰砂、赤土、黄土、青土、石灰、墨、金、銀、紺青、鉛丹、鉛白などの顔料は、古墳時代後期に描かれた有名な高松塚古墳の壁画、法隆寺金堂の壁画の絵具として使用されている。

わが国で水性絵具の樹脂成分として、漆や膠の使用が記録されている。また油性絵具の樹脂成分としては、酸化鉛を加えた乾性油が使用され、法隆寺の玉虫厨子の密陀画に使用された。

19世紀になって調合ペイントが生産されるようになり塗料工業が生まれ、塗装作業者が塗装の都度、顔料を油で練って調合する手間が省けるようになった。塗料工業は、アメリカの自動車産業の発展を足掛かりに発展した。

2. 塗装の目的と効用⁽¹⁾

2-1 保護機能：鉄、コンクリート、モルタル、プラスチック、木材などは、水、熱、光、塩分などの環境要因や腐食ガスなどの人的要因の影響を受けて劣化が進行する。これを防ぎ寿命を延ばすために物体の表面に強固な皮膜を施すことが行われている。

2-2 美粧機能：塗料は容易に各種の色彩、表面のつや、滑らかさの異なる仕上げ感を出すことができる。これらを組み合わせて各種のデザイン効果を発揮することができる。

2-3 特殊機能：

- ・電気・磁気機能：電磁波遮蔽、電磁波吸収、プリント基板
- ・熱機能：耐熱、断熱、熱反射・吸収
- ・光学機能：蛍光、蓄光再帰反射、紫外線遮断
- ・物理機能：ガラス飛散防止、貼紙防止、落書き防止、結露防止
- ・化学機能：消臭、ガス選択吸収、光触媒機能利用
- ・バイオ機能：抗菌、防かび、防虫、水中防汚
- ・その他：防音、制振、貼る塗料など

3. 塗料の種類⁽³⁾

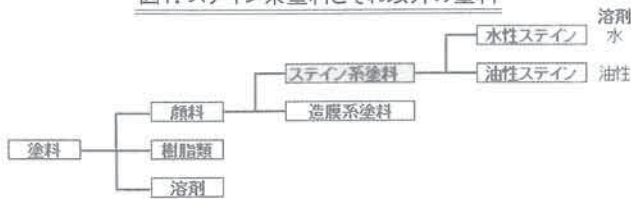
オイルステイン(Oil Stain)のステインとは、染料を染み込ませて染色するという意味があり、オイルステインは、屋内外の木部に使用し、塗膜を作らないで含浸して着色する油性塗料のことである。

オイルの代わりに水を使用したものを水性ステインと呼んだり、水性オイルステインと呼んだりする。

それは、低粘度、液状で、刷毛などで塗布し木材に浸透し着色することができる木部用着色剤であるため、物性を出すためには上塗り塗料の塗布が必要である。木地に浸透させる

必要があるため、ペンキやニスの上からは、塗装できない。塗料の機能としては美粧機能(上記の2-2)のみで、保護機能や特殊機能は有しない。下図1にオイルステインと他の造膜系塗料(油性塗料または水性塗料)との違いを示した。

図1. ステイン系塗料とそれ以外の塗料



オイルステイン塗料の組成の例は、以下である(3)：

- 顔料類(酸化鉄など) 1~5%
- 溶剤類(アルコール類など) 99~95%

一方、油性塗料および水性塗料は下図2に示したごとく、造膜のための成分を多量に含んでいる(1)：

塗膜になる成分：

- ・顔料：着色顔料、光輝剤、体質顔料、防錆顔料など
- ・バインダー樹脂：油脂、天然油脂、油性及び水性合成樹脂など
- ・添加剤：表面調整剤、粘度制御剤、乾燥・硬化触媒、紫外線吸収剤など

塗膜にならない成分：有機溶剤、水、空気(粉体塗料)など

図2. 油性塗料と水性塗料



歴史的には、わが国では水性塗料が先行したが、19世紀以降は油性塗料が量的に主体を占めるようになった。1960年代になって各種水性樹脂原料が工業生産されるようになり、油性塗料に使用される溶剤による火災や健康被害を避けるため、水性塗料が使用されるようになった。

4. 塗料の塗布方法(1)

小規模塗装では、刷毛塗り、スプレー塗装が一般的であるが、カラー鉄板、パネル、パイプなどの大量生産型

塗装では機械塗装(ロールコーター法、カーテンフローコーター法、静電塗装、電着塗装、紫外線硬化塗装)などが使用されている。

5. 塗料の現状(4)

・塗料別2016年度の出荷量(千トン/年)

溶剤塗料：635、水性塗料：433、無溶剤塗料(粉体)：109、その他：111

オイルステイン塗料は、その他に分類されているものと推定される。

・用途別2016年度使用量推定(千トン/年)

建物類：567、船舶：102、道路車両：247、電気機械・機械・金属製品：213、木工製品：15、家庭用品：30、道路標示：67、その他：29

オイルステイン塗料は、用途別分類では木工製品に含まれるものと推定される。

6. まとめ

日本から発信したものでなさそうなオイルステイン塗料という聞き慣れない名称の塗料と既存の油性塗料・水性塗料の違いについて述べた。オイルステイン塗料とその他のものとの決定的な違いは造膜性の有無にあり、オイルステイン塗料の用途が木工品の木目の美粧化に限定されるのに対し、ほかの塗料は造膜性を利用した機能付与に成功しつつある。木と紙でできた伝統的な日本家屋が、木質材の美粧化の進展でどのような生活・住環境を今後獲得することになるのか期待するところである。

7. 参考資料

- (1) 高橋淳, 滝本康之, 福田昭. 塗料・インキがわかる技術読本, シーエムシー出版2004.
- (2) 鶴田榮一. 顔料の歴史. 色材. 2002, vol. 75, no.4, p.189-199.
- (3) 関西ペイント. <http://www.kansai.co.jp>
日本ペイント. <http://www.nipponpaint.co.jp>
和信ペイント. <http://www.washin-paint>
大谷塗料. <http://www.otanipaint.com>
アサヒペン. <http://www.asahipen.jp>
- (4) 日本塗料工業会. 生産統計と用途別出荷予想 <http://www.toryo.or.jp/jp/data/index.html>.

都市との共存 — 正確 安全 確実 —

危険物設備なら信頼の技研。

危険物タンクの漏洩検査
(平成16年4月1日法改正対応)

- 危険物設備の設計・施工
- 発電設備(非常用)燃料タンクの製造・販売
- 危険物タンクまわりの付属機器の販売

危険物設備の安全をトータルにリードする

株式会社 技研

〒663-8113 兵庫県西宮市甲子園口2-24-12 TEL.0798-65-5100 (代表)

GIKEN

「仕事と家庭の対人関係⑥」

緊急事態! その時あなたは、どう助け合う!?

梅花女子大学心理こども学部心理学科
教授・社会学博士 太田 仁

人生の四季とステージ

猛暑と雷雨・豪雨の夏が過ぎ、秋風が肌寒く感じる季節となりました。秋は、スポーツ、読書などの文化活動や食欲の秋ともいわれます。精神的にも身体的にも充実する秋は文字通り「実りの季節」といえます。

秋の次には、冬が来ます。もう、来年の手帳やカレンダーも売り出されました。クリスマスにお正月などの季節の移り変わりと共にある行事も私たちの人生を彩ります。私たちの人生もよく四季の移り変わりになぞらえて言われたりします。

こういった日本人の精神生活のよりどころとなっている四季の感動を味わう時間が奪われ感性が鈍化していっていると感じるのは私だけでしょうか。仕事とお金の算段に追われ、冥利に使われる人生の中で、「これでいいのか」とふと我に返ると人生も後半、退職後どうなるんだろうと心に秋風が吹いている人も少なくないのではないのでしょうか。

中学の時に習った「枕の草紙」では清少納言が京都での生活感をもとに季節と一日の変化を見事に描写しています。春はあけぼの（明け方）、夏は夜、秋は夕暮れ、冬はつとめて（早朝）と、季節により一日の感慨深い時間帯を見事に書き抜いています。

人生100年時代とも言われる今日に、学校で過ごすステージと、職場で過ごすステージ、そして家庭や地域で過ごすステージと3つのステージを考えたとき、退職後の時間が延長されています。その主な関心事が、「お金」「健康」「介護」だけでは、退職後に与えられた命を楽しむことはできません。

私たちの人生も日々の時間の積み重ねといくつもの季節を経て、その生涯が彩られてゆきます。できることなら各ステージで人生の四季を堪能して来るべき次のシーズンにワクワクしながら人生を楽しみたいものです。

心理学では日常の経験の蓄積を発達と呼んでいます。この発達には生涯にわたることから生涯発達により人生をとらえることで幸福な人生と社会に貢献しようとする心理学の研究に生涯発達理論があります。

生涯発達の理論について特に、人生を一日の時間に例えた研究者にユングがいます。スイスの心理学者ユングは、人の一生を1日の太陽の進行に例え、「40歳を人生の正午」とし、人生を日の出から日没までの4つの時期（少年・成人・中年・老人）に分けました。ユングによるとある時期と時期の間には転換期と呼ぶ「危機」があり、人生の午前から午後への移行期である中年期の転換期が人生最大の危機と指摘しています。

また人生を四季に例えたアメリカの心理学者レビンソンはユングの研究を踏まえ、成人期の発達をライフサイクルの四季になぞらえ、1) 児童期と青年期 2) 成人前期 3) 中年期 4) 老年期の4つのステージであるとしています。4つのステージの過渡期である、児童青年期から成人への過渡期（20歳-25歳）、人生半ばの過渡期（40歳-45歳）、老年への過渡期（60歳-65歳）には、自分と取り巻く環境の変化が起こり、今までの発達期で用いてきた生活パターンの作り変えが必要とされています。

特に中年期には「若さと老い」「破壊と創造」「男らしさと女らしさ」「愛着と分離」という葛藤が生じ、自己の内部だけでなく、周囲との関係に葛藤が生まれる危機期=「中年の危機」があるとなりました。このとき、アイデンティティ（=自分らしさ）の拡散・喪失が生じやすいため、価値観・人生観の転換によるアイデンティティの再体制化が必要となります。カナダの精神分析学者エリオット・ジャックはこの中年期の心理的葛藤を「ミッドライフ・クライシス」と命名しています。「長年歩んできた仕事人生に迷いが出ている」「これまで大切に指摘ものが無意味だと思うようになった」といった思いが去来している中年期の人たちの危機を指しています。

迷いとは何をすべきか、どちらへ進むべきかといった選択の迷いです。Being is Choosing=生きる事とは選ぶことです。何気ない日常の選択の積み重ねが私たちの人生を導いてゆきます。現在の自分と取り巻く環境は、これまでの自分の選択の結果とも言えます。

進学する時の学校の選択をはじめ、就職、結婚、子育て、そして退職後の生き方まで、一つ一つの選択が自分にとって快適な生活を実現するための選択をするためには、その時々で目まぐるしく変わるマスコミの論調や伝統的価値観や身近な圧力に惑わされることなく、自分と向き合う勇気が必要です。

安定期が終わり次の発達段階に移行する過渡期では、それまでの生活パターンの見直しが求められます。季節の移り変わりに、衣替えや冷暖房の切り替えが必要なように新しい人生のステージに向かう自分と環境の適合性を考えて、次のステージに備えて新しい生活パターンをつくる心の準備をしなければならないといえます。

米国のキャリア心理学者スーパーは、人生を、「ライフステージ」と「役割」で説明を試みています。

スーパーは「ライフステージ」の人生を時間軸で5つの段階に分け、それぞれの段階で人としての特定の課題があり、その課題に取り組むことを通じて人間的な成長を遂げていくということをいっています。

「役割」とは、人生の中でさまざまな役割（ロール）を指しています。働く人であり、子（親との関係）であり、親（自分の子との関係）であり、配偶者（結婚相手との関係）であるなど、私たちは複数の役割を並行して持ちながら生きています。自分は、いまどんなライフステージにいるのか、またどんなライフロールを持っているのかを考えるのは、これからのキャリアを設計するに当たって多角的な視点を与えてくれます。

また、スーパーは職業的発達段階論でも各段階では達成すべき課題があるとしています。最近よく耳にするキャリアですが「私たちが仕事で身に

つけていく技術・知識・経験に加えて、人間性を磨いていくこと、そしてプライベートも含めた自分自身の生き方を磨いていく事」を指しています。

キャリア発達を段階上の直線的な変化だけでなく、移行期では成長・再探索・再確立といった回り道をしながらも自分に最適な選択をすることの必要性を説いているなど参考になる指摘が多くあります。各段階とその課題は以下のように説明されています。

成長段階（誕生から14歳）の課題：どのように人なのかについて考えを発達させる。仕事世界への嗜好性や働く意味の理解を発達させる

探索段階（15から24歳）の課題：職業的好みを実行に移す。現実的な自己概念を発達、より多くの機会についていっそう学ぶ

確立段階（25から44歳）の課題：希望する仕事をする機会を見つけ、他者とか関わり、職業的地位の安定を築く

維持段階（45から64歳）の課題：自らの限界を受容する。働き続ける上での新たな問題を明らかにし、本質的な行動に焦点をあてる。獲得した地位や利益を保持する

解放段階（65歳以降）の課題：職業以外の役割を開発する。よい退職時点を探す。常々やりたかったことをする。労働時間を減らす。

ただ、ここで紹介した発達理論は、人生100年時代を想定してないので65歳以降の人生が具体的に語られていません。

65歳過ぎても働きたい人、もうごめんと言う人、働かざるを得ない人、どうしていいか途方にくれて不安でいっぱいの人、そんな人たちへの羅針盤となるべく研究も進んでいきます。このことについては次号以下でご紹介させていただこうと思います。

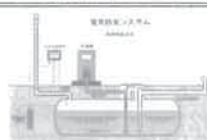
地下タンク老朽化対策をお考えの皆さまへ

高精度油面計



- 40年以上経過した地下タンクに
- ◆地下タンク液相部の漏れを常時監視
 - ◆0.01t単位の残油量管理ができる
 - ◆タッチパネル液晶で簡単操作

電気防食工事



- 50年以上経過した地下タンクに
- ◆地下タンクを使用しながら工事ができる
 - ◆工期が短く、施設営業への影響は最小限
 - ◆FRP内面ライニングに比べて低コスト

ご用命は施工経験豊富な当社へ!

お見積・ご相談は ☎0120-016-889 MAIL info@nssk.co.jp HP http://www.nssk.co.jp/

給油機器を買うなら、日本スタンドサービスで。

給油所や工場などでご使用いただける給油機器製品を幅広く取り扱っております。ネットショップにて製品ラインナップを是非ご覧ください。 http://www.rakuten.co.jp/auc-nssk/

大阪 大阪府東大阪市中新開2-11-17 ☎072-968-2211 日本スタンドサービス株式会社
東京 東京都目黒区碑文谷2-21-6 ☎03-5721-4787

危険物知って納得 etc ②

～高圧ガス保安法～ 「放置ボンベ撲滅」を目指して

大阪市消防局予防部規制課

はじめに

大阪市を含む大阪府内の各市町村にあっては、平成23年4月から順次、「大阪府産業保安行政事務に係る事務処理の特例に関する条例」に基づき、「火薬類取締法」、「高圧ガス保安法」及び「液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律」(以下「保安3法」という。)に係る事務について、大阪府から権限が移譲され、各市町村(高槻市を除く)の消防本部(局)がその事務を処理しています。

今回は、府内全消防本部で構成する「保安3法事務連携機構おおさか」※1(以下「機構おおさか」という。)において、権限移譲後に取り組んでいる高圧ガス保安法に係る「放置ボンベ※2撲滅」の取組みについて、紹介させていただきます。

※1 「保安3法事務連携機構おおさか」とは、権限移譲後の大阪府下各市町村における保安3法関係法令の運用及び指導内容等の平準化並びに国、大阪府、警察その他関係機関等との連絡調整等を行うことを目的として設立されたもの(事務局:大阪市消防局予防部規制課内)

※2 「放置ボンベ」とは、路上や空地に投棄された所有者不明の高圧ガスボンベのほか、事業所等で使用されずに存置されている高圧ガスボンベのこと

「放置ボンベ撲滅」の取組みの発端について

平成24年中に大阪府内で発生した高圧ガスに係る事故24件のうち、半数は高圧ガス容器(以下「ボンベ」という。)に起因する事故(盗難を含む)となっていました。また、近畿一円の放置ボンベ等の廃棄処理等を行っている「大阪高圧ガス容器管理センター」には、年間2,000本程度のボンベが持ち込まれていました。

平成25年には、府内の事業所で破裂、飛翔したボンベにより従業員の方が亡くなるという痛ましい事故が発生しました。

この事故の原因が事業所内に放置されていた所有者不明のボンベであったことから、機構おおさかでは、ボンベ管理の徹底を図ることがより府民の安全・安心につながるものであると再認識し、府内消防本部が連携し、さらに大阪府及び関係団体と協働して、平成26年度から放置ボンベの撲滅に取り組むこととなりました。

放置ボンベによる事故事例(大阪府内)

- ・事例1：事業所内に放置されていた酸素ボンベを処分しようとして従業員が無理な力を加えたところ、バルブが吹き飛び酸素が一気に噴出し、ロケット状態となって飛翔したボンベが約8メートル先にいた他の従業員に直撃し、死亡したもの
- ・事例2：飲食店に食品酸化防止用の窒素ガスボンベを設置していたが、約10年前から使用せずに放置していたため、ボンベに錆びが生じ、その部分が圧力に耐え切れず破裂し、その破片で店舗内の天井、床及び調理設備等が破損したもの



破裂したボンベ
(事故事例2)



破損した天井
(事故事例2)

「放置ボンベ撲滅」の取組内容について

放置ボンベに対する指導等については、消防職員が行う対象物への立入検査等に併せて実施することができるという大阪府から権限移譲されたメリットを最大限活用し、次の取組みを実施しています。

① 立入検査による指導

溶接溶断事業所、廃品回収事業所及び飲食店等の高圧ガス消費事業所等への立入検査時に、放置されたボンベのほか、キズがあるものや変形しているボンベなどを発見したときは、高圧ガス販売店へ返却するよう指導を行う。また、高圧ガス販売店が判明しない場合は、関係団体への回収依頼又は適正な管理について指導を行う。

② 高圧ガス販売店への指導

顧客状況を適確に把握し、ボンベの管理の徹底等の指導を行う。

③ 放置ボンベの処理

空地等に投棄された放置ボンベの所有者が判明した場合は、当該所有者に引取りを依頼する。また、所有者が判明しない場合は、関係団体に回収を依頼する。

④ 広報

- ・ホームページやフェイスブック等への啓発記事の掲載
- ・啓発ポスター及び啓発チラシの配布

⑤ 府内消防本部間での情報共有

類似及び系列事業所への指導等を行う場合や放置ボンベに係る事故等について、府内消防本部間で情報共有を行う。

「放置ボンベ撲滅」の取組み結果について

次の表のとおり、平成26年度から平成28年度までの3年間に府内で発見された1600本もの放置ボンベに対し、撤去又は是正措置を行うことができました。

これにより、放置ボンベによる事故を一つでも未然に防止することができたと考えています。

放置ボンベの撤去及び是正数

年 度	大阪府内			大阪市内		
	合計	撤去 ※1	是正 ※2	合計	撤去 ※1	是正 ※2
H26	803	531	272	119	105	14
H27	500	382	118	67	65	2
H28	297	222	75	52	50	2
合計	1,600	1,135	465	238	220	18

※1) 撤去数:消防に通報があったもので、販売事業者(所有者)や関係団体が放置ボンベを回収した数

※2) 是正数:不適切な管理状況のボンベに対し、適切な管理方法を指導した数

「放置ボンベ撲滅週間」の設定について

放置ボンベ撲滅の取組みにより、撤去等の措置を行ったボンベ本数が年々減少しているという結果からは、府内、市内ともに放置ボンベがなくなってきたという成果の表れと考えられますが、未だ発見されていない放置ボンベは、どこかにあるかもしれません。

今年度からは、事業所の方だけではなく、より多くの方に放置ボンベについて知っていただくため、機構おおさかが主体となり、大阪府内の消防本部独自の取組みとして毎年10月23日から29日までの1週間を「放置ボンベ撲滅週間」と設定しました。



「放置ボンベ撲滅週間」ポスター

この取組の期間中に各消防署の他、各鉄道会社のご協力のもと駅構内等における啓発ポスターの掲出並びにホームページ、フェイスブック及びラジオ等の広報媒体を通じて放置ボンベ撲滅について周知させていただきます。

事業所の皆様へ

皆様の事業所におかれましても、危険物施設のみならず事業所内全ての安全を確保していただくため、今一度このような放置ボンベが存置されていないことを確認していただきますようお願いいたします。

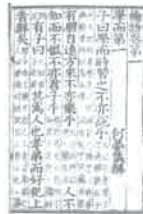
もし、放置ボンベを発見された場合は、ボンベに触らず、最寄りの消防署までご連絡ください。

大阪市消防局は、「放置ボンベ撲滅週間」を通し、皆様と一緒に放置ボンベのない安全・安心なまちづくりに努めてまいります。

ご意見・ご質問がありましたら、大阪市消防局予防部規制課まで
TEL:06-4393-6242 E-Mail:pa0032@city.osaka.lg.jp

知の遺産 論語に学ぶ ②9

「子曰、躬自厚、～」



今月の論語は「子曰、躬自厚、而薄責於人、則遠怨矣。」(衛霊公第十五の十五)である。

書き下し文は、「子曰わく、躬自ら厚くして、薄く人を責めれば、則ち怨に遠ざかる。」となる。

解釈としては、「孔子が言われました。自分に厳しく、人に寛大であれば、人から怨まれることはなくなる。」と訳されている。

人は何かあると、自分自身を反省せずに、人を責めてしまいがちである。そこで孔子は、人に対しては思いやりの心をもって寛大に接し、自分に対しては道理をもって厳しく責めるといふ心が求められると言っているのであろう。

とかく我々は、他人には厳しく、自分には甘くなり、何か失敗したり、問題が起きると、誰かのせいにして、気持ちを楽にしたいと考えがちである。そこをまず、配慮が足りなかったのではないか、本当に努力したのか、といったようなことを自分に問いかけ、自らを省みるようにする。問題が起こった場合、そこには原因があり、それによって結果が現れるのである。そしてその原因は自らが作っていることがままたる。そのような場合、良いことも悪いことも、自らの行動・考えから発しているわけで、結果に関しては、良いことも悪いことも自分に責任があるということである。努めて自分で責任を取り、人のせいにしなさい。そうすれば人から怨まれることはなくなるだろう。

人のタイプは四つに分けられると何かで目にすることがある。一つ目は、自分に寛大で人にも寛大。二つ目は、自分に寛大で人には厳しい。三つめは、自分に厳しく人には寛大。四つ目は自分にも人にも厳しい。人は誰でも他人からよく思われたい、嫌われたくない、好かれたいと考える。「仕事にミ

スはつきものだから、みんなでカバーすればいい」そんな風に他人に対して寛大であれば、ひとから好かれるだろう。しかし、他の人に優しく寛容な人は、自分に対しても甘かったりするかもしれない。自分にそれほど厳しくないから、他の人にも、あまり厳しい気持ちを持たないでいられるというところがあるのではないだろうか。

また、他人に厳しく、自分に甘いというのは、他人のミスは責め立て、自分の失敗には知らん振りするというような人が多いのではないか。自分に甘いのに他人には厳しさを要求するという身勝手さは、他の人の嫌悪を招くことになってしまいかねない。

逆に、人間とはこうあるべきだと何事にも手を抜かず、こうと思ったら突き進み、自分を厳しく律して生きる人がいる。人は「あの人は偉いなあ」とは思っても、積極的に近づくとはしないのではないか。実際、自分に厳しい人は周囲にも厳しい目を向ける傾向が強い。つねに自分を厳しく律していくという人は、模範となる立派な人ではあるが、ハンドルに遊びがあるからこそ、車の運転がスムーズにいくように、人生も適度の遊びや柔軟さがあるからこそ、ゆとりのあるものになるのではないだろうか。

厳しさということとは異なるが、「失敗は人のせい。成功は自分の力。」そんな人を見かけることがある。そんな人は、やはり人から怨まれていることが多いようである。人間関係を円滑にする上でも、失敗した時は自分のせい、うまく行った時は誰かのおかげという気持ちを持ち、「人のせい」にはしないよう気を付けなければならない。

孔子は、四つのタイプの中の、「自分に厳しく、他人には寛大に」と説いている。己に厳しく他の人に対しては優しく寛容に、と口で言うのは優しいが、そう簡単にできるものではない。おそらく自分に厳しい人は、先ほども述べたように、他の人にも厳しくなるであろう。他の人に対しては、心優しく寛容な心をもって、おおらかに包容力のある人格を築くよう努めたいものである。



今回も、危険物に対してより知識と技能を習得していただけるよう、危険物取扱者試験の類似問題を作成し解説していきます。今回は基礎的な物理・化学の問題について行います。 *Let's Try!*

〔基礎的な物理・化学〕

気体の水素が気体の酸素と反応して2モルの水を生成するとき、およそ572kJの熱が発生する。



この反応から、気体の水素が気体の酸素と反応して、144gの水が生じた場合、どれだけの熱が発生するか、次のうち最も近いものはどれか。ただし、水素の原子量1、酸素の原子量16とする。

- (1) 1,144kJ (2) 1,716kJ (3) 2,288kJ (4) 2,860kJ (5) 3,432kJ

…解説…

今回の問題は、化学反応式を見て解いていく問題になります。

化学反応式では、2molの水素と1molの酸素を反応させた時2molの水が生成し572kJの熱量が発生したことが分かります。

問題では、水が144g生じた場合の熱量を求めることになっています。よって最初に化学反応式の2molの水は何gなのかを知る必要があります。

水素の原子量1、酸素の原子量16と与えられていますので、分子量を計算します。

水(H₂O)はHが2つとOが1つから生成されているので、下記のとおりになります。

H : 1×2=2

O : 16×1=16

分子量は16+2=18となる。しかし、化学反応式では

2molの水となっているので、2分子の水が生成されることになり、18×2=36となる。

よって、2molの水の質量は36gとなる。

では、問題の水を144gにした場合の熱量を解いていきますと、2molの水36gに対して144gの水が生じるので、水の量は4倍になります。

よって熱量も4倍にする必要があるので、

572kJ×4=2288kJ

したがって、(3)が答えとなります。

ポイント

今回のポイントは、化学反応式を理解しているかどうかになり、問題で示されている水の質量が、化学反応式で示されている水の質量の何倍になっているのかを見極める必要があります。ただ、ほとんどの人が、化学反応式を見るとやる気が無くなる、又は諦める方が多くいますが、冷静に反応式だけを見れば単純な問題となっております。

実際諦めずに、挑戦して解いてみたら意外と簡単なことが多いので、決してあきらめず挑戦してみましょう。

参考

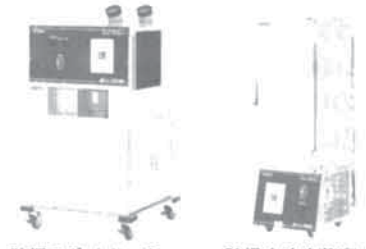
化学又は物理に対して、嫌悪感を抱く方は多数おられると思います。しかし、いざ解いてみると意外に簡単な事が多くあります。確かに、かなり難しく、高度な知識が無いと解けない問題もあります。高度な問題を解くためには、基礎知識の積み重ねが必要となり、始めから高度な問題は解けません。

始めは、基礎的な化学及び物理を一步步ずつ解いていくことで、おのずと高度な問題を解くことができるようになります。

当協会では、危険物取扱者試験の合格を目指す方の手助けとなるよう養成講習を行っておりますので、一度受講して、基礎を学んでみてはいかがでしょうか。



防爆冷温機器の Daido



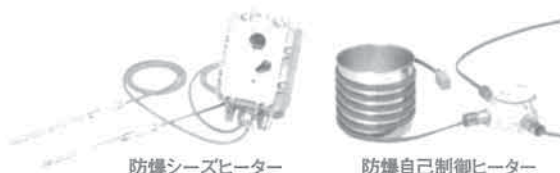
防爆スポットクーラー 防爆冷凍冷蔵庫 DGFシリーズ(150ℓ～)

◆防爆スポットクーラー◆

第1類、第2類危険箇所での使用が可能なスポットクーラーです。夏季の危険場所での熱中症対策や高温の労働環境改善に。

◆防爆冷凍冷蔵庫◆

危険物倉庫内の第4類危険物の低温保管、また反応活性を抑え冷暗保管が必要な引火性試薬の保管に施設機能付防爆冷蔵庫。



防爆シーズヒーター

防爆自己制御ヒーター

- 危険場所での凍結防止、反応容器の熱源に防爆シーズヒーター。 ●低温で固化する引火性薬品の安全な融解や引火性のある塗料・接着剤の粘度安定化に防爆自己制御ヒーター。



株式会社 大同工業所

大阪府東大阪市楠根1丁目6番45号 TEL 06-6746-7141 FAX 06-6746-7195 http://www.daido-ind.co.jp

防爆電気機器を安全に設置、運用、保守頂くために、(一社)日本電気制御機器工業会が推奨するSBA-Ex(防爆電気機器安全資格)等の防爆専門知識を保有・活用されることをお勧めします。

爺(じい)放談①

ワイツゼッカー元独大統領

ジャーナリスト 藤井 英一

関西学院大のジャーナリスト希望の男女学生10数人と9月9日、話をする機会に恵まれた。団塊の世代の自分から見れば孫世代である“次世代の主役”たち。国内外とも政治の求心力が衰弱している昨今、どんな未来を描いているのだろうか。

そんな彼らに冊子を一冊ずつプレゼントした。新聞社勤務時代の1999年クリスマス号に刊行した「『平和への対話』ワイツゼッカー氏来日全発言」(111頁、毎日新聞社刊)。

西独大統領だったワイツゼッカーさんは、率直なナチズム批判と国民に歴史と向き合う必要性を説いた敗戦40年連邦議会演説「荒れ野の40年」(85年)で知られる。89年のベルリンの壁崩壊や翌90年の西独ドイツ統一など、世界歴史の歯車が大きな音を立てて回る節目に大統領として立ち会った政治家である。

世紀末の「平和への対話」

ベルリンの壁崩壊10年後の99年春、そのワイツゼッカーさんを招き、大阪・京都・神戸・長崎・沖縄で「新世紀の平和」をテーマに若者らと対話してもらったエキスをまとめたのが、この冊子。ワイツゼッカーさんは一昨年、94歳で逝去したが、冊子には世界の若者に期待するしなやかな期待が詰まっている。

「母と暮せば」の主人公

北朝鮮の核実験や矢継ぎ早のミサイル実験。制裁を巡る米韓日・中露の国際パワーポリティックスのせめぎ合いが新聞紙上をにぎわしている。そんな中、9月3日朝刊「反核運動に尽力、長崎大元学長、土山秀夫さん死去」の訃報が目を引いた。

被爆者の土山さんは88年から5年間学長。退任後、核兵器廃絶を訴える市民運動に本格的に取り組み、理論面から支えた。90年から四半世紀にわたり長崎原爆の日の平

和祈念式典で長崎市長が読む平和宣言の起草委員を務めた。04年からは「世界平和アピール七人委員会」のメンバーだった。山田洋次監督の映画「母と暮せば」の主人公のモデルにもなった。米露中が関与し、韓国・北朝鮮・日本を非核化する「北東アジア非核兵器地帯構想」や「核兵器禁止条約」の具体化を訴えてきたという。

若者への信頼と熱きエール

「平和への対話」でワイツゼッカーさんは、長崎大生相手に語った。4月14日、爆心地から1キロの長崎ブリックホールで。「核時代と平和」と題し、池田高良・学長と山下俊一・医学部教授とのシンポジウム。池田学長と山下教授が、大学が継続しているチェルノブイリ原発事故に伴う被爆治療支援の実態と課題について紹介したのを受けて、ワイツゼッカーさんが核時代の矛盾、そして若者への期待を熱く語った。

「広島・長崎への原爆投下は、人間自らが作り出した大量破壊兵器で自分たちを消滅させることができる時代の始まりとなった。核の抑止力とそのジレンマに、だれも答えを持っていない。国際世論が声高に軍縮の必要性を唱え、軍拡にきちんと反対の意思を明確にしていく必要がある。それができるのは核兵器を持たずつくらない日本やドイツなどの国」

「若い人が社会に出ていく時に、いろいろ難しい問題はあるが、妥協せず最初は決して譲らない。政治家というのはややもすると非常に情けない妥協に落ちてしまうという傾向にある。若者は、実際に力を持っている人に対し決して控えめにならず、どんどんものを言ってほしい」。

自由闊達か

21世紀に入って17年。世界はそして日本は、元ドイツ大統領の示した「平和への課題」の答えを未だ出していない。新世紀の若者は、20世紀に比べ格段に自由闊達(かっかつ)となったのであろうか。元大統領の温かな挑発は、どう受け止められるのだろうか。

同窓会館に集ったジャーナリスト志望の関学生に「朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)が誕生したのは、69年前の今日(9月9日)」などと、語る私。そして、「市民にとって危険とは何か?」をテーマに、メディアの荒海に船出する若者に、元大統領と同じエールを送った。



設計 製作 販売

タンクトレーラー・タンクローリー・タンクコンテナ・ポータブルタンク

特殊液体輸送の信頼できるパートナー

TONAN 東南興産株式会社

本社 〒552-0021 大阪市港区築港4丁目1-1 辰巳商会ビル7F TEL 06-6576-1901 FAX 06-6576-1950
特装部 〒554-0052 大阪市此花区常吉2丁目10-39 TEL 06-6463-0005 FAX 06-6466-1316

<http://www.tonan-kosan.co.jp>



火消の心意気を知る人向け

『火喰鳥 羽州ぼろ鳶組』

今村 翔吾 (祥伝社文庫)



江戸の火消しを、しかも武家火消しを主人公にするのは珍しい。

弱小藩の火消し組織は金がないため火事装束を整えられず、火消したちはバラバラの格好。それを世間は、ぼろ鳶と最初は揶揄するが、やがて実力を発揮することで、憧れと賞賛が変わっていく。粋な男たちの感動の物語である。

江戸随一と呼ばれた武家火消し、松永源吾は、最愛の深雪に横恋慕した上役の息子たちの奸計にはまって脚に重傷を負い、出掛けるべき火事場に大幅に遅れた。それが原因で、妻深雪と貧乏浪人暮らしとなったが、そこに出羽新庄藩から、壊滅した藩の火消し組織立て直しのため、火消し頭取就任を要請された。

だが、小大名新庄藩の財政は厳しく、火消し組織再生の費用は200両のみ。新庄藩は方角火消しを受け持ち、その定員110名をゼロから集めなければならない。

配下には、元新庄藩火消し頭取の息子鳥越新之助がいるが、この男剣の遣い手で、記憶力に優れているが、親父の役目に全く関心がなく、一から教える必要があった。

火消し組織の核となるのは、纏持ち、壊し手、風読みである。まず、相撲興行で人捜しをした。かつて実力者で現

在年齢により引退間近の荒神山寅次郎を壊し手とした。次に山城座の軽業師彦弥。惚れた女の借金を肩代りしたため本人が借金取りに追われている。それを源吾がけりをつけ、彦弥を纏持ちとした。残る風読みは、源吾の知人の息子で、世に隠れ住む天文学者加持星十郎を説得して仲間に入れた。

主要人物はあと2人いる。1人は源吾の妻深雪。火消し100名の確保を口入れ屋で行うが、数字に滅法強い深雪が驚くべき交渉力を発揮する。さらに源吾の屋敷を使っの火消し仲間の打ち合わせ時に出すお茶、料理代は、亭主を含めて全員から徴収する徹底ぶり。しかし、旨いお茶と絶品の料理に誰も文句を挟まない。また、土産持参や仕事を頑張った折には、無料にする気配りもある。

もう1人の人物は火付け盗賊改め長官長谷川平蔵。江戸の各地に放火を続ける謎の火付け集団の取り締まりに、捕り方と火消しが協力し合う。

最後の大規模火付けに、江戸中の火消しが大奮闘する最中、源吾たちの住居まで猛火が襲い、深雪たち女性が大奮闘するも絶体絶命。そこに源吾たちぼろ鳶が駆けつけて消し止める。その様がまさに火を貪り喰う迫力で、かつての源吾の尊称、火喰鳥が蘇った瞬間だった。

第2弾『夜哭鳥』もさらに人間ドラマとして円熟味を増しているの、改めて紹介しておく。(愚痴庵)

言辞言説

体力と気力、精神力

暑い夏が過ぎ、ようやくのぎ易い秋が来たが、夏の暑い時期の体力の消耗は大きく、なかなか体調は回復しない方が多いのでは?昔の話だが部活で夏休み明け、季節の変わり目はどうしても体の動きが鈍くなる。それを見かねた監督が「こら気合を入れていけ」という号令がよく飛んでいた。この気合というのは果たしてなんだろうか。「身体に力を入れる」では体力だろうが、それ以上の力は気力、精神力となる。

監督の大声はどこまでもエネルギーの塊で、雷鳴のような声だったことを覚えている。これは体力なのか気力または精神力だったのだろうか。

体力はそのもの自身の体を動かす力、病気などに対する抵抗力を有する力である。では気力とは何だろうか。人には気力というものがあるという。これは何かを行おうとする精神力で胆力でも同じである。ある程度の体力の限界を超えた力で、歯を食いしばり、なにくそという思いだけで通常の限界を超えた力が発揮されるというものである。「火事場のバカちから」という言葉がある。これも精神力、いわば気力からくるものであるか。

体力と気力の関係は大いにある。年齢と共に体力は衰える。かといって気力も萎えるのかというとそうでもない。体力が衰えた人でも気力は旺盛という人もいる。逆に気力、精神力が萎えると体力は衰退するらしい。かつて、CMに「やる気はあるけど身体がついてこん」というのがあったが、まさに気力、体力の関係そのものを表している。ある日、若者のごとく身体を動かそうと「さあ、やるぞ」と言ったら、すかさず家内から「年寄りの冷や水」という言葉が返ってきた。やはり年齢相応に。